

地域全体に活気と潤いを生み出す「まちなかアリーナ」



設置 日野市 産業スポーツ部文化スポーツ課 スポーツ係
運営 株式会社フクシ・エンタープライズ
 ☎ (042) 591-1541 FAX (042) 506-7082

■所在地
 ・東京都日野市 南平4-23-1
■アクセス
 ・南平駅から徒歩で約10分

DATA

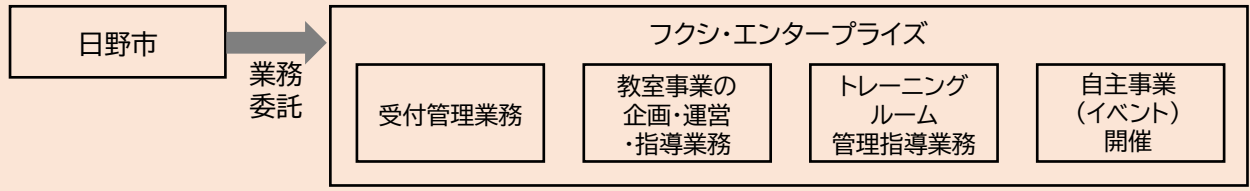
- 竣工 ・2021年
- 規模 ・延床面積 5,032㎡
- 総事業費 ・約30億円
- うち補助金
 - ・学校施設環境改善交付金 246,106千円
 - ・地域環境力活性化事業 23,034千円
 - ・多摩産材利用促進プロジェクト 30,000千円
 - ・スポーツ振興くじ助成金及び地域スポーツ施設整備補助金 16,000千円

■主な設備



<その他>
 ・トレーニングルーム
 ・多目的ルーム1・2・3
 ・ラウンジ
 ・コミュニティスペース
 ・デッキ など

■体制図



※「受付等管理業務」として、業務委託で発注。将来的に、指定管理者制度とする予定。
 「(仮称)南平体育館受付管理等業務委託事業者選定に係る公募型プロポーザル実施要領」によって、最長3年3か月継続的に業務委託での運営が可能となっている。

構想・計画 設計・建設 管理・運営

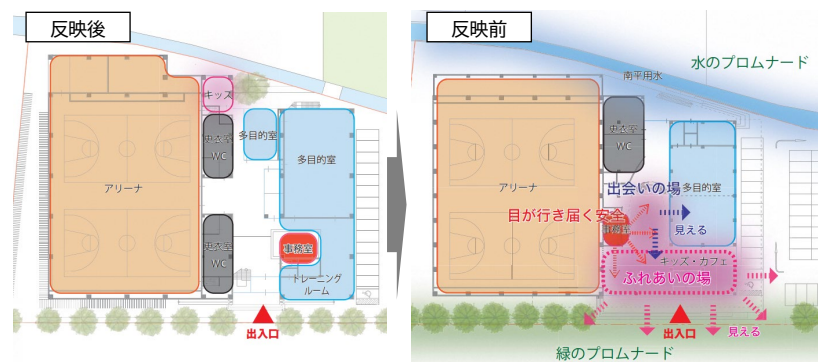
○すべての人が使いやすい施設へ

- 新耐震基準を満たす施設に
 - ・旧体育館は昭和54年の竣工で、**新耐震基準を満たすため、耐震補強工事が必要**となっていた。
 - ・施設がかなり老朽化し、利用者からの利用しづらいといった声もあり、建替えることに至った。
- 様々な立場の人の意見の把握
 - ・施設の基本計画の策定にあたり、基本理念や必要諸室、機能等の方向性を構築するため、**様々な立場の人の意見を把握し、施設の基本計画を策定した。**

- <意見の把握方法>
- ・利用者アンケート調査
 - ・関係スポーツ団体へのヒアリング
 - ・パブリックコメント
 - ・住民説明会(計4回)
 - ・ユニバーサルデザインまちづくり推進協議会への調査
 - ・施設運営管理者へのアンケート調査

○様々な属性の声を反映した設計

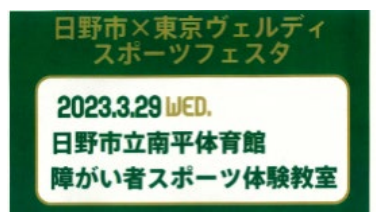
- 市民ファーストの「まちなかアリーナ」ワークショップ
 - ・市民が使いやすい施設を目指し、スポーツ関係団体、障害者団体(視覚、聴覚等)、消防団、自治会など**様々な分野の市民を集め、ワークショップを開催し意見を収集した。**
 - ・ワークショップでは**参加市民を6グループ(1グループ約5名)に分け、同じテーマで計4回のディスカッションを行った。**
- ワークショップの意見を踏まえ、設計図のブラッシュアップ
 - ・建物の構成について、図面等を用いて**ワークショップ参加者からの声を反映し、図面等のブラッシュアップを図った。**また、細かな施設の機能等についても参加者の声を用いて検討を行っている。



- フラッと立ち寄れる
 - 地域住民のふれあいの場で親しみある地域の寄合場の創出
- つながりの場
 - 光溢れる吹抜空間で活気ある出会いの場の創出
- すべての人が使いやすい施設
 - みんなの目が行き届く安心の施設/段差のないバリアフリー/明快な室配置で利用しやすい施設

○利用者目線のサービスを展開

- 誰もが参加しやすいプログラムの開催
 - ・東京ヴェルディの協力を受け、**障害者、健常者ともに参加できる障害者スポーツ体験教室を開催する。**その他、ママヨガ等属性に合わせた教室を開催する。
- 満足度アンケートなど常に市民の声を聞く
 - ・竣工後、オープン前にワークショップに参加した障害者団体(視覚、聴覚等)を中心に**完成後視察を実施し、意見を把握・集約した。**
 - ・2022年4月のオープン以降も**施設利用満足度アンケートを実施する**など、常に市民の声に耳を傾け、サービス向上を目指している。



エントランス

公共交通等を利用して来館しやすいよう、敷地内外での工夫

視覚障害者が、慣れない道では施設に来館することが難しい。



バス停からエントランスまで点字ブロックを途切れないように敷設。

視覚障害者が、来館時、受付等の場所がわかりづらい。



施設の入口から、受付まで点字ブロックを敷設。

館内の段差は、利用者にとってつづく要因や負担となる場合がある。



出入口の境界部分は、車いす利用者等に実走いただき、特に問題ないことを確認し、現状維持。

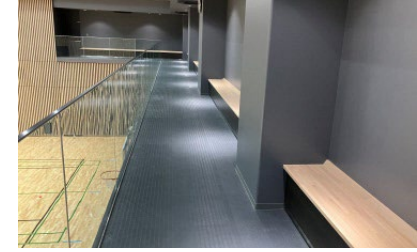
アリーナ

車いす利用者や視覚障害者は段差があると移動が難しい。



各居室の出入口は、フラット床となっており、誰もが出入りしやすい環境。

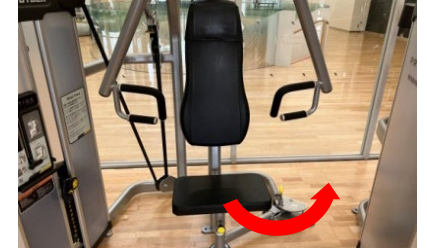
車いす利用者は広いスペースがないと観覧ができない。



手すりを透明にし、幅員を広くすることで、2階席で車いす利用者も観戦することが可能

トレーニングルーム

通常のトレーニングマシンでは、車いす利用者は、器具への乗降が大変である。



座面をずらすことで、車いすに乗ったまま利用できるトレーニングマシンを複数台設置。

駐車場

自動車で来館した際、駐車場から入口までの移動で濡れてしまう。

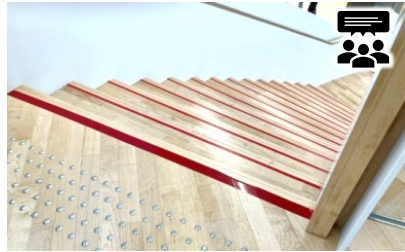


車いす利用者専用区画やおもてなし区画等を屋根のある入口付近に設置。

階段・エレベーター

安全・安心して移動可能となる工夫

階段の高低差を認識しづらく、つまづいたりする原因となりやすい。



階段段鼻を視認しやすいよう赤いテープを施工。

視覚障害者にとって、点字ブロックだけは不安なときがある。



階段手すりの始まり部分がかかるよう点字シートを添付。(利用者からの意見を踏まえ設置)

トイレ・更衣室

すべての属性が使いやすい空間を実現

全ての利用属性にとって、トイレを使いづらいと感じる人がいる。



館内のすべての大便器は車いす利用が可能。車いす利用者でも開閉しやすいよう折戸を採用。



女子トイレには男児用の小型小便器を設置。

大型スリッパを用意し、靴を脱がずに利用。

シャワールームをひとりで利用することが困難な場合がある。



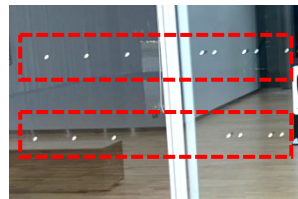
間口の幅員を広くし、台座もあり車いすからの移動も楽に可能。介護者と利用可。

施設全体

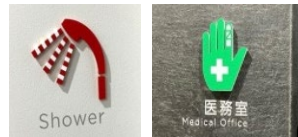
館内のアクセシビリティが不十分で、利用者の中には不便を感じる。



施設内は、ガラスウォールで開放感があり、施設内の居室がわかりやすくなっている。また、館内至るところに、ぶつかっても怪我とはならないクッション性のあるソファやベンチを設置。



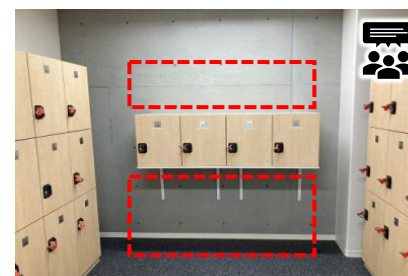
ガラスウォールは、視覚障害者や子ども等がぶつかる恐れがあることから、桜の葉模様のデザインを施す。また、利用者からの意見を踏まえ、子ども目線の印も設置。



凹凸のあるピクトグラムを採用し、視覚障害者や目の不自由な高齢者でもわかりやすい表示。



車いす利用者にとって、標準的なロッカーだと手が中まで入りづらく、混雑している際、利用しにくい環境である。



車いす利用者に視線を合わせ、上下のロッカーをなくし、車いすの足が下に入り、中まで手が届くように工夫。

赤ちゃんや子ども連れだと気軽に施設を利用できない。

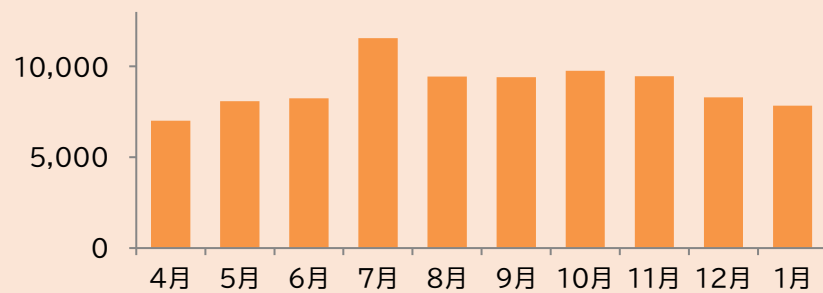


個々の利用者に適した室温に設定し、心地よく過ごすことができるよう、授乳室にエアコンを設置。

[参考]前頁で記載したワークショップでの意見を踏まえて対応した取組について、「」を付与

利用者現状

利用人数



・2022年4月オープン、2023年1月までの累計利用者は89,136人
・2022年度通期では利用者10万人を超える見込み

効果

- ・トイレ及び更衣室に満足しているとの回答。
- ・ラウンジが無料開放されていて満足しているとの回答。
- ・トレーニングルームの設備に満足しているとの回答。

2022年末から2023年1月中旬にかけて、利用者に対するアンケートを実施(満足度のトップ3)

利用者Voice

- ・バリアフリーロッカーが使いやすかった。
- ・キッズスペースや授乳室が靴を脱がなくても使えて便利である。
- ・受付の人やトレーナーの人が親切で、気軽に利用しやすい施設である。
- ・コミュニティバスのバス停が新しくできてアクセシビリティが向上し、便利になった。
- ・エレベーターで英語音声もあり、外国人でも利用しやすい環境である。